

【地域の概要】

- 下呂市は岐阜県のほぼ中央に位置し、市の中央を飛騨川が南へ、西には清流馬瀬川が流れ、総面積の91%が森林という自然豊かな山村地域。日本三大名泉の1つとされる下呂温泉には年間250万人以上の人を訪れる。
- 主な農産物は、昼夜の寒暖差を活かした夏冬トマト、飛騨牛ブランドで知られる肉用牛、人気水稻品種「いのちの壺」が栽培されるなど水稲も盛ん。
- 耕地面積は1130ha（田800ha、畑330ha）

①取組開始前の状況や課題

「農業を活用した地域づくり」

- ①農地を選ぶ（人・農地プランの策定）
 - ②農地を守る（交付金を活用した農地の維持管理）
 - ③農地を整える（土地改良事業）
 - ④農地をつなぐ（担い手への農地集積と新規就農者の誘致）
- の4つのステップで農地集積と新規就農者の誘致を促進する。

○紙の大きな地図を広げて、野帳と呼ばれる農地一覧を確認しながら、農地の状態をチェックをしているため、個人の見方による判断の差があった。

②取組内容

人工衛星リモートセンシングを活用した農地パトロール（令和3年9月～）

○令和3年度から機構集積支援事業を活用し、全国に先駆けて人工衛星リモートセンシングを活用した農地パトロールを実施。

農業を活用した地域づくり視察メニューの造成（令和4年3月）

○市内の各地域で進めてきた農地集積や新規就農者支援体制の仕組み等の「農業を活用した地域づくり」の事例を紹介する視察メニュー（羽根・上原・東・馬瀬地区）を造成し、視察・研修を積極的に受入れることで観光振興及び地域振興に寄与する。

○各地域の農業委員が積極的に地域との話合いに参加し、「農地の番人」的な従来の農業委員会から脱却し、農業を活用して地域を守る「地域の農地コーディネーター」としての役割を果たした。

③今後の展開と方向性

県外・県内への情報提供

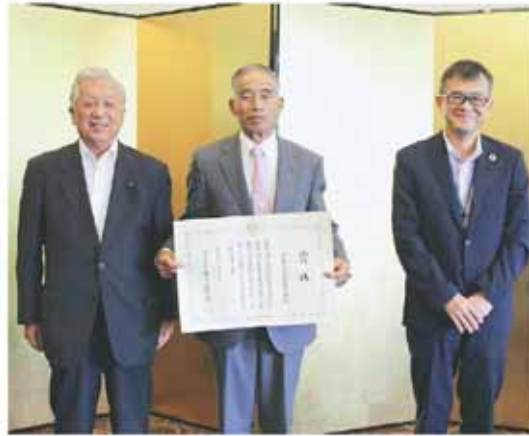
○人工衛星リモートセンシングによる農地パトロールが完了したばかりで十分なプロモーションが出来なかったこと、コロナ禍に伴う活動自粛、移動制限の影響により、現時点では視察の受入れ実績は無いが、問い合わせは多くきているため、今後も県農林事務所・農業会議等と協力し、県外・県内の市町村へ向け情報発信を行う。

新たな地域メニューの造成

○造成した4地区以外も地域の農業委員に話し合いに参加してもらい、地域メニューを造成していく

農地利用最適化で大臣賞

衛星データで耕作放棄率測定



岐阜・下呂市農委會

【岐阜】下呂市農業委員会（金森茂俊会長）は、いち早く人工衛星データのAI解析を導入するなど農地利用の最適化推進活動を効率的に実施する仕組みを整備した取

り組みが評価され、2021年度農業委員会等表彰の農林水産大臣賞を受賞。6月13日に表彰伝達式が行われた。写真。同市では昨年度、人工衛星リモートセンシングを活用した農地パトロールを実施した。植生の

波長の変化を人工衛星のセンサーで検知、そのデータをAIが解析し「耕作放棄率」を数値化。数値が高いほど農地が荒れていることを示す仕組みだ。事務局とシステムを運営するサグリ株が筆ごとに確認。その結果、耕作放棄率35%以下は耕地とす一方、同60%以上は遊休農地とした。こうした取り組みにより、目視確認する農地は4万5千筆から1万5千筆まで抑えられることが分かり、これまで大きな紙地図を広げて確認していた作業が、タブレット端末1台で位置・地番の確認や遊休農地かどうかの入力ができ、作業時間

を大幅に短縮できる。また、地図の作成や調査後の入力などの事務局の事務も大幅に減らすことができる。人工衛星データとAI解析の組み合わせにより、利用状況調査での遊休農地の目視確認が効率的かつ客観的に行われることが期待される。農業委員会でのタブレット導入が本格化する中、同農委會では視察の増加に備え、今年3月に4地区の「農業を活用した地域づくり」視察メニューを作成。担い手への農地集積や新規就農者の誘致などの紹介と合わせて積極的に視察を受け入れ、同市の観光業、地域振興に寄与する考えだ。